

平成24年度「ながさき水産業大賞」受賞者の概要

1. 長崎県知事賞

部門名	受賞者名	概要
収益性の高い経営体づくり	小長井町漁業協同組合 (諫早市)	シングルシード（一粒種）を用いたマガキ養殖に取り組み、「華漣(かれん)」と名づけ東京のオイスターバーに出荷して高い評価を獲得。さらに、第1回かき日本一決定戦(殻付き生牡蠣)では初代王者の栄誉を得るなどし、新たなブランドを確立することで地域の活性化に大きく貢献した。
活力ある漁村づくり	峰東女性部キッチン (対馬市)	「地元の美味しい水産物を子供達に食べてもらいたい」という地域の要望にこたえた地元産品を活用した水産加工の取組みが、対馬市内の全町の学校や養護老人ホームで給食に採用されるまで発展。水産物の付加価値向上、食育の推進に大きく貢献し、女性の社会参加の模範となっている。

2. 長崎県漁業協同組合連合会長賞

部門名	受賞者名	概要
収益性の高い経営体づくり	対馬真珠養殖漁業協同組合青年部 (対馬市)	長期に渡ってアコヤガイ赤変病の対処方法を研究、発症低減に尽力。研究の成果は、平成23年度の全国の品評会で「浜揚げ・花珠」の2部門で最高位を受賞するなど評価されており、本県の養殖技術向上に大いに貢献した。平成23年度全国青年・女性漁業者交流大会で農林水産大臣賞受賞。
活力ある漁村づくり	奈留町一本つり研究会 (五島市)	ケンサキイカの水揚げ減少を期に同研究会を発足。学習会を開催し、タチウオ曳縄漁法の普及に努めた結果、水揚量が36.6トン(H19)から94.2トン(H20)に増加。現在も新技術の開発に取り組む。また、後継者対策ではIターン者に対しても、技術指導を惜しまず地域の模範となっている。

3. 特別賞（ながさき水産業大賞運営委員会会長賞）

賞の種類	受賞者名	概要
特別賞	長崎大学水産学部学友会 (長崎市)	漂着ゴミの問題を機に平成4年学部生が自ら提案し、海浜清掃活動を開始。学部生の志が受け継がれ続け、15年間の経過した現在では、夏季と秋季の年2回、毎回60～100名が参加して行われる学生による地域の環境保全のボランティア活動として定着・貢献している。
特別賞	新上五島町栽培漁業推進協議会 (新上五島町)	昭和60年度に放流用アワビ種苗(5万～20万個)の生産を開始。カサゴ(5～7万尾)、オニオコゼ(約2万尾)、サザエ(約2万個)の種苗を生産・放流しており、地域の栽培漁業の中核。放流漁場では放流アワビ混獲率は80%前後もあることなど、種苗放流の効果も明らかにした。